

練馬・文化の会 会だより

共同代表：有原誠治 大内要三 小岩正子 小沼綾子 田場洋和 吉田巳蔵

事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

2016年度(第46回)練馬・文化の会総会

5月28日(土) 午後1時半～職員研修所

基調講演：「安倍政権のメディア制圧戦略」(仮) 一永田浩三・武蔵大学教授

創立45周年を記念するイベントは今秋にも実施する計画ですが、16年度(46回)総会は5月28日(土)午後1時半～職員研修所で行います。このところ、会のイベントでは来賓あるいは外部参加者の発言の機会が多かったのですが、今回の総会・講演終了後の懇親会では

インナーの会員の皆様に大いに語りあっていたきたいと考えています。出欠ハガキ、議案書は次の4月「会だより」に同封いたします。

(出欠ハガキは次の4月号「会だより」に同封いたします)

若者を引きつける企画をどう作るか?の論議を!

文化の会の平均年齢はおそらく70歳前後。幹事会での45周年記念企画の論議の中でも、(60代以下の)若者を引き付けられる企画は何かが課題となりました。総会後の懇親会でも皆さまから思い切った企画の提案を頂きたいと

思います。懇親会そのものを、そういう交流の場に仕立てあげられたらと思います。参院選は18歳投票権も実現します一若者を引き付ける何かうまいイベントのアイデアはないでしょうか? (田場記)

「戦争法廃止」への練馬の戦いは、パレードでも、署名活動でも



戦争法(安保法制)に反対する国民の戦いは、昨年の強行採決以降もますます広がっております。練馬では、昨年7月1日には1350人、9月1日には1500人が集まって抗議の声をあげました。また、今年の3月5日には1000名の人々が練馬駅周辺のパレードに参加しました。これには、練馬の6つの政党、会派が、一緒になって「野党共闘で安倍内閣倒せ」の声をあげました。

集会では、SEALDsの今村幸子さんが、「政治について考え行動することは、日常を、友人を、恋人を、家族を、そして自分を大事にするということだ」と声をあげ、安保法制に反対するママの会@東京の丹野真由美さんは、

「私たちの思いはただ一つ。だれの子どもも殺させない」と声を震わせました。また、元牧師で練馬・文化の会



の会員である東海林勤さんは「戦争とは、人間が勝つために機会になること」と戦争の非情理を訴えました。最後に呼びかけ人代表で、練馬・文化の会共同代表の有原誠治さんが「日本の平和と9条を守るということは、世界の中では孤立しているのではなくて、むしろ共感の輪が広がっている。戦いに自信を持ってほしい」と語りかけました。

3月15日には、練馬の主要駅頭で「2000万人署名活動」を行い、29団体126名が参加、335筆以上の署名を得ました。このように練馬の「戦争法廃止」へ向けての戦いは、パレードだけでなく身近な人々への署名活動に広がっており、区内10万人の目標に対して全力を挙げております。土建の主婦の会の人、一人で750筆以上を集めている人もおります。

5月3日の最終日まで、これからも各地域で、集会で集めることとなりますが、練馬・文化の会としても3月29日の国会前大集会への参加など、積極的な活動を行っていきましょう。

(森田記)

平良愛香さん（牧師）を講師にLGBT問題を考えます

4月4日（月）午後6時半～ココネリ第1研修室
小沼稜子（練馬・文化の会共同代表）

4月4日（月）午後18時30分よりココネリ第一研修室においてLGBT問題を考える集会を開催します。以下は、その集会での「集会アピール」として書かせてもらったものから抜粋したものです。

「私たちの多くは、長い間の慣習や習慣によって育まれた、「男は男らしく、女は女らしく」という社会的性（ジェンダー）に縛られてきました。その意識は女性たちから自由を奪い、男性をも息苦しい型にはめ込んできましたが、中でも、性的マイノリティを「異常な性」として差別する風潮を生み出してきました。そして、その中でカミングアウトできずに苦しむ人々の存在にさえ、気づくこともありませんでした。

しかし、ジェンダーや差別意識は、学習することによって克服することができるものです。

反対に、学ぶことがなければ、自分の無意識の中に眠っていた、異質なものを排除し、拒否するという幼児性に気づくことはなく、「差別している」自覚もないまま差別発言をくり返す事態がおこるものと思われま

す。練馬区議会で行われたような恥ずべき差別発言も、その一例に過ぎず、多数派であることに安住して、学ぶことを知らない議員は決して少なくはないものと思われま

す。最近では、杉並区にも飛び火をしました。このような発言が当たり前であるかのような風潮を広げてはなりません。」

昨年11月の本会議中に小泉純二議員から性的マイノリティへの「差別発言」がありました。私は、この発言を小泉氏個人の問題として受け止めるのではなく、多くの区議会議員や、ともすると私たち自身に内在する差別の問題であると捉えたため、「性的マイノリティへの差別は許されるものではない」ことを明確にするために、署名を集めて陳情を提出することにしました。しかし200名以上の署名とともに提出した陳情書は、議会運営委員会で「審議になじまない」として却下されたのでした。今、もう一度表現を少し変えて、陳情書を提出し、追加署名を集めていますのでご協力ください。

4月4日の集会には、ご自身がゲイであることを明確にしながら、牧師活動が続けておられる平良愛香さんをお招きしています。誰もが自分らしく生きられる社会、多様な生き方、多様な価値観を認め合う社会を作り上げるために、私たちは、これからも学び合って、己の中にある差別意識にも正面から向き合い、他に対しても、差別は許さない態度を示し続けていきたいと思っています。

練馬地域の会主催：（放射35号線）道路整備問題の学習会にご参加を！

「道路予算のバラつきを考える」をテーマに

安達智則さん（自治問題研・主任研究員）招く

4月2日（土）午後1時半～ココネリ第1研修室 資料代：300円

昨年末に発表された東京都の第4次道路整備計画では1兆1億円で有名な外環道をはじめ、練馬区内の道路計画が大きく動きそうな気配です。としても10年～30年はかかる計画ですから、道路にかかった住民も慌てふためく必要はないのですが、土地・住居の買い占めが始まったら最後、後戻りはできないのが道路計画です。桜台・練馬在住の住民でつくっている「練馬地域の会」では、まず学習をということで、「道路

予算のバラつき「を考える」をテーマに、東京自治問題研究所の安達智則・主任研究員を招いての学習会を企画しました。

道路計画そのものは都・国の管轄が大部分ですが、区民にとっては生活・環境を破壊しかねない大問題。区としても、区民の生活防衛の立場から積極的な対応が望まれます。50人の全区議に学習会への参加を呼び掛けています

「第5回 江古田映画祭—3・11 福島を忘れない—」を終えて
16日間で延べ900人超す参加者、チラシは22000枚配布
ギャラリー古藤：田島和夫

第5回 江古田映画祭—3・11 福島を忘れない—は2016年2月27日(土)～3月13日(日)まで16日間、会場を初日武蔵大学1号館、2月28日(日)～13日(日)会場をギャラリー古藤で行い延べ900人を越える方々に映画を観ていただき、それに加えて、トークライブ、展示、店頭販売等、大盛況で終わることができました。今回もメインテーマを「3・11福島を忘れない」としました。

作品としては、幅広く福島原発事故に関わる「日本と原発4年後」「小さき声のカノン」「パンドラの約束」など18本の映画を上映し、河合弘之監督、鎌仲ひとみ監督など映画製作者のトークライブを行い、会場からも生の感想や意見を毎回出してもらい観客を交えた交流がなされました。何度か超満員になるなど、いつも会場内には熱気が満ちていました。「大変勉強になりました」「参加できてうれしかった」「元気が湧いた」「ずっと続けてほしい」などの感想も多くいただきました。「学び、考え、交流し、行動につながる江古田映画祭」の場をつくりだせたとの手ごたえを感じることができました。

9月の第1回目から毎回20名近くの実行委員が集まり、テーマ、上映映画の選定、周知方法、役割分担等々の議論を行い準備を進めました。映画祭開催中は多くのボランティアの方々が、

会場受付、映写、トーク司会、物販などに従事し円滑な運営が行われました。

幅広く多くの皆様に映画を観てもらうため、映画祭の周知に力をいれました。朝日新聞、東京新聞に大きく記事が掲載され、また読売新聞、しんぶん赤旗、ふえみん、江古田新聴等でも紹介記事が掲載されました。

今回も「練馬まちづくりセンター」が後援し、22000枚作成したチラシがスムーズに配布でき、幅広い広報ができました。また、「ギャラリー水・土・木」の協力をいただき、広がりをもった交流をつくりました。

初日の武蔵大学でのオープニングパーティでも様々な人々との出会い・交流がありました。

「郡山から送っていただいた絵手紙」「浜通り南部写真展」「福島こども保養プロジェクトの保養活動の紹介写真」などの展示物には来場者からは多大な関心が寄せられました。

なお、会場での保養カンパの呼びかけに多くの募金が集まり、福島のこども保養プロジェクトを行っている2団体に寄付いたします。「第5回江古田映画祭」にご協力いただいた映画関係者・団体・ゲストの方々、入場者並びに練馬・文化の会をはじめ関わったすべての人々に、厚くお礼申し上げます。

(2016年3月16日、江古田映画祭実行委員会)

日本軍「慰安婦」問題—真の解決にほど遠い日韓政府合意
西野留美子さん（バウラック代表）、冷静な分析と厳しい批判
2月26日（金）後6時半～ ココネリ会場満杯の70名が参加

一体どのくらい参加頂けるのか—主催者側はいつもこんな心配ばかり。ですが、日韓政府合意を受けての日本軍「慰安婦」問題に関する西野留美子さんのスペシャル・フリートークには、文化の会関連で30名、バウラック関連で20名、ほか20名の計70名が参加し、会場満杯の参加者でした。

日韓合意に関する日本国内のマスコミ論調はおおむね好意的な内容だっただけに、日本の戦争責任—慰安婦問題対応に関する西野さんのマスコミ論調への切込みはシャープで教えられました。参加者からは「慰安婦とは？」を描いた土井敏邦さんのドキュメンタリーに心打たれた

との感想も寄せられ、やはり慰安婦問題は当事者の立場に立って考えられるかがポイントだと痛感させられました。



(田場記)

「沖縄映画祭」9月下旬に10日前後、ギャラリー古藤で実施へ もあい練馬、江古田映画祭、文化の会の3者共催で近く打ち合わせ

この1年を振り返っただけでも、練馬では沖縄関連の映画がかなり上映されています。大部分が1日だけの上映会ですので、見逃した方も多かったのではないのでしょうか？

そこで江古田映画祭の田島・大崎夫妻とも話していたのですが、東京近郊で「沖縄映画祭」をやっているところが何か所かある。それらの作品も参考にしながら、江古田で実施できないだろうか・・・。

もあい練馬の柏木、横山さんなどとの飲みながらの話では大いに盛り上がりました。文化の会の2月の幹事会で提案したところ、賛同いただきました。

練馬での上映会を中心に田場の手元にあるチラシで作品をラインアップしたら、以下のようになります。中には無料でDVDを提供すると

いう申し出もありますので、少なくとも赤字にならずに取り組みそうです。

- ① うりずんの雨（ジャン・ユンカーマン監督、シグロ30周年記念作品）
- ② 「教えられなかった戦争—沖縄編；阿波根昌鴻」：高岩仁監督
- ③ 「標的の村」「戦場ぬ止む・・・」（三上智恵監督）：
- ④ 「ザ・思いやり」（相模原在住の米人・リラン・バクレー）
- ⑤ 日本テレビ系・森口裕作品集（28本の作品制作、離島のドラマの原作も）
- ⑥ ONE SHOT ONE KILL—沖縄海兵隊（森の映画社—影山あさ子、藤本幸久、68分）

（田場記）

5月中旬の俳優座「反応工程」上演で文化の会会員に特別割引 （A席5400円が4700円、B席4320円が3800円に）

俳優座は5月13日（金）～22日（日）新宿紀伊國屋ホールで、宮本研（戦後史3部作）の第1作目『反応工程』を舞台化します（同封チラシ）。文化の会は3月21日に行われる実行委員会に参加しますが、この参加を受けて文化の会会員には特別割引サービスいただけるということです。

この「反応工程」は、文化の会の会員の下哲也さんが、制作にあたっていたものですが、大変残念なことに下さんはこの上演をみることなく、3月13日（日）急逝されました。文化の会としては、2月26日の西野講演の後の2次会で初めて一杯やり、本格的なお付き合いが始まろうとしていた矢先でした。

（田場記）



左記のとおり本会会員（落語芸術協会真打）の桂南なん師匠の落語会があります。ご来場のほどよろしくお願いします。

（中村記）



第32回「わらいず落語会」

演目：ねずみ穴 他一席

（間に端唄と「江戸クイズ」30分）

日時：2016年3月27日（日）

午後2時から3時30分 場所：ジギスカン 飯大

練馬区豊玉北5-20-10 電話 3948-1285

本戸銭：1,000円 懇親会：2,500円

主催：「わらいず」落語実行委員会

年会費（14年度？+15年度）のお支払いよろしくお願い致します！

年会費未払いの人には、小封筒に「督促状」と「振込用紙」を入れて年会費の支払いをお願い致しました。2014年度会費が未払いの場合は、14年度3千円、15年度2千円の計5千円の支払いをお願いしております。45周年事業のイベント、記念号発行などをつつがなく進めるためにもよろしくご協力お願いいたします。